

生徒のコミュニケーション能力を高めるための自立活動の取組 ーソーシャルスキルトレーニングにおける問答ゲームの効果検証を通してー

長期研修生 宮内 伶

1 研究の目的

中学校特別支援学級担任として生徒と関わる中で、社会参加に向けて、他者と円滑な関わりを持つようになることが課題だと感じていた。しかし、生徒が相手の気持ちを考えて行動する場の設定や、相手の話を聞き、理解し、それに対して自分の考えを適切に伝える機会の確保が、不十分であった。

そこで、本研究では、生徒が自分の考えや思いを表現する方法を工夫しながら、自ら他者と関わろうとする態度を育成するために、自立活動の指導の中で言語技術を高める活動を計画し、実践することとした。そして、その活動で高まった言語技術が、他者との関わりにおいて生かされ、他者とのやり取りにおいてコミュニケーション能力を高めることに効果的であるかどうかを検証することとした。

2 研究の内容

(1) 文献等による研究

様々な文献等から、コミュニケーション能力を整理し、本研究におけるコミュニケーション能力を「対話において、相手の話を聞き、理解するとともに、自分の考えや気持ちを伝え合う力」とした。また、対話の訓練の一つに「問答ゲーム」があり、対話の型を意識して繰り返し取り組むことで、質問に対して自分の考えを簡潔に述べ、対話が成立しやすくなると示されている。

(2) 生徒の実態

中学校自閉症・情緒障がい特別支援学級の4名の生徒を対象とした。実態として、関心のない話題には加わりとせず、相手からの質問に対して適切に返答することが難しかったり、自分から他者と関わりを持つとしなかつたりするなど、コミュニケーションや他者との関わりにおいて課題が見られた。

(3) 問答ゲームの実践

実践前半では、生徒が対話の型を意識して取り組めるよう、一つの質問に対して自分の結論と理由を述べるやり取りを行った。対話の型に慣れてきた実践後半では、質問と返答を繰り返した後、教師が生徒に結論の再提示を促すやり取りを行った。このことで、相手の話を聞く力や考える力、自分の考えを伝える力などの、生徒の言語技術が高まった。

対話の型への意識を継続することを目的として、夏季休業中にロイロノートを活用した問答ゲームをオンラインで行った。このことで、生徒は2学期の問答ゲーム再開時にスムーズに臨めた。

(4) ソーシャルスキルトレーニングの実践

コミュニケーション能力の向上を目的として、生徒の実態や活動の目的に応じて小集団やペアに分け、ロールプレイを行った。その際、生徒は、問答ゲームで高まった言語技術を活用し、相手に分かりやすく伝えることを意識して行った。このことで、生徒は設定された場面について考え、どのような言動をとるとよいかを意識した言動が見られるようになってきた。

(5) アンケート及び聞き取りの実施

事前アンケート（6月）と事後アンケート（10月）を実施した。また、生徒や学級担任等から聞き取りを行い、生徒の変容をまとめた。生徒からは、実践の有用性を感じられる意見があった。学級担任からは、生徒が他者と関わる際の態度が優しくなった、問答ゲームの実践回数が増えるにつれ、自分の考えを伝えられるようになってきたなど、生徒の変容に関する意見があった。

3 研究のまとめと今後の課題

問答ゲームを通して言語技術が高まったことで、ソーシャルスキルトレーニングにおける生徒の望ましい言動につながり、日常生活における態度や言葉遣いに良い変化が少しずつ見られるようになった。このことから、問答ゲームの実践は他者とのやり取りにおいて、コミュニケーション能力を高めることに一定の効果があったと考えられる。

今後は、身に付けた言語技術や望ましい言動が、日常生活の中でも発揮されるように、生徒の実態に応じた具体的な場面を設定しながら、継続した実践に取り組んでいきたい。